

2013年公開シンポジウム
「東日本大震災後の復興の今を語る」

開催日時：平成25年7月20日（土）13時～17時30分

開催場所：京都大学文学部第3講義室

主催：社団法人全国日本学士会

2013年公開シンポジウム「東日本大震災後の復興の今を語る」の趣旨

私たちは、大震災後2年数カ月が経過しても今なお復興は遅々として進まず、そればかりか、未だに仮設住宅で先の見えない日々を送らざるを得ない多くの皆さん方の心労はいつそう深刻化している現実に関心を痛めています。

一方、大震災の多くの教訓を噛みしめながら歩まなければならないとの国民の思いとは裏腹に、国は早くも原子力発電技術のトップセールスに奔走し、これから極めて広域的に広がった放射性物資が中長期的に子供たちの心身に深刻な影響を及ぼすことが危惧されることを忘れ去ろうとするかのような現実の進行に愕然としております。

また、宮城県に典型的に見られるように自治体では、三陸リアスの海に生きる地域住民の意思や希望に関係なく、「10m でだめなら 15m と」と言わんばかりに巨大なコンクリートの防潮堤をほとんどすべての浜に張り巡らせる計画が進められています。このような構造物が東北太平洋沿岸 400km にわたって張りめぐらされれば、豊饒の海三陸の未来に深刻な影響が出ることは明らかだと思われまます。

東北から遠く離れた京都において、震災後の時間の経過とともに大震災を国民全体が自らの問題としてとらえる意識が次第に風化しつつある中、今一度この日本の行く末を大きく左右する国民的課題の本質を見つめ直し、今何をすべきかを考える機会として本シンポジウムを企画いたしました。

本シンポジウムの最大の特色は、この2年数カ月間さまざまな現場で被災の現実に向き合い、困難を明日の扉を拓く原動力に変えるべく取り組まれてこられた多彩なパネリストの皆さんより思いのあふれた話題を提供していただけることにあると考えております。

ご参加いただきました皆様にとって、実りあるシンポジウムとなりますことを願っております。

平成25年7月20日

「2013年公開シンポジウム「東日本大震災後の復興の今を語る」実行委員会」

委員長 田中 克：京都大学名誉教授、(公財)国際高等研究所チーフリサーチフェロー
事務局 岡田和男：社団法人全国日本学士会理事・事務局長

2013年公開シンポジウム

「東日本大震災後の復興の今を語る」

プログラム

I. シンポジウム 「東日本大震災後の復興の今を語る」

1) 主催者挨拶 13時～13時5分

2) 基調講演 13時10分～14時10分

「森里海連環から東日本大震災復興の今を見る」

京都大学名誉教授・(公財)国際高等研究所チーフリサーチフェロー 田中 克氏

3) パネル討論 14時15分～16時45分

(司会：京都大学大学院教育学研究科博士課程3回生 松永 智子氏)

【話題提供者】

「東電福島原発事故後に現れた生と死の交叉点で」

ジャパンレポート<3.11後の持続可能な未来への道>プロジェクト 黒坂 三和子氏

「測定を通して知る放射能汚染の実態」

京都大学大学院工学研究科原子工学専攻 教務職員 河野 益近氏

「南相馬から日本の近未来をみる - 低線量被ばく、急速進行性の高齢化社会の先にあるもの -」

南相馬市立総合病院在宅診療科 医師 原澤 慶太郎氏

「東日本から避難された人たちの今とこれからのこと」

避難者と支援者を結ぶ京都ネットワーク みんなの手代表 西山 祐子氏

「震災後の自然環境を活かした復興について」

NPO 法人森は海の恋人 副理事長 畠山 信氏

「行政が進める復興事業と住民が思い描く復興の街」

関西学院大学総合政策学部教授・気仙沼市震災復興会議委員 長峯 純一氏

4) 総合討論 16時50分～17時30分 (司会：松永智子氏)

コメンテーター 田中 克氏

II. 懇親会 (参加費 1,000円)

時間：18時00分～19時30分

場所：京都大学カンフォラ

講演者プロフィール

【田 中 克：京都大学名誉教授・(公財) 国際高等研究所チーフリサーチフェロー】

1943年滋賀県大津市生まれ。京都大学大学院農学研究科博士課程修了。農学博士。水産庁西海区水産研究所研究員、京都大学農学部助教授を経て、同大学院農学研究科教授。2003年京都大学フィールド科学教育研究センター長。2007年マレーシアサバ大学ボルネオ海洋研究所客員教授。2010年より(財)国際高等研究所チーフリサーチフェロー。

この間、水産生物学、特に沿岸性魚類の初期生態を研究し、それを基盤にして森から海までの多様なつながりとその再生を目的とする新たな統合学問「森里海連環学」を2003年に提唱。国民的社会運動「森は海の恋人」と連携し、日本の沿岸環境再生の試金石である有明海における森里海連環研究ならびに気仙沼舞根湾における3/11巨大地震と津波が沿岸生態系に及ぼした影響と回復過程に関する研究を進める。

NPO法人森は海の恋人理事、NPO法人ものづくり生命文明機構理事

主な著書：魚類学下(1998年、共著)、森里海連環学(2007年、共著)、森里海連環学への道(2008年)、稚魚一生残と変態の生理生態学(2009年、編集)、水産の21世紀—海から拓く食料自給(2010年、編集)、森と海を結ぶ川(2012年、共著)など

【黒 坂 三和子：ジャパンレポート<3.11後の持続可能な未来への道>プロジェクト】

3.11直後から”子ども達や多様ないのちを守って!”と内外の最新情報を整理し約1~3ヶ月毎に約十数回(英語3回)発信してきている。天地の啓示を謙虚に受けとめ、”いのちの代謝均衡”を基盤とする暮らし・経済へと転換しようとする先駆的な事例紹介・歴史的経緯・全体像をJapan Report(日本語・英語・中国語)として3周年記念に刊行予定で作成中。

「チェルノブイリ事故の環境影響と修復：20年間の経験」(”環境”専門家グループ報告書、2006、IAEA)を12大学20余名の学生と原元利浩と共に無報酬で翻訳し2012年9月公開。「ヒロシマ・ナガサキ：近代性と野蛮性」W.ラヌエット(翻訳)に「3,11フクシマ」を黒坂付記し2013年5月に配信。

エール大学森林・環境学部S.ケラート教授の日本人の自然観・動物観調査補助を経て、1980年代後半から世界資源研究所(WRI)日本担当として日本の主要セクター(政府・学術界・産業・金融業界・マスメディア・NPO/NGO)に地球規模の環境政策に取り組むように働きかけてきた。

東京農工大学卒、北海道大学環境科学大学院研究生、ヨーク大学環境学大学院修士。

【河 野 益 近：京都大学大学院工学研究科原子核工学専攻 教務職員】

1953年、愛媛県(四国電力伊方原子力発電所からおよそ8km)生まれ。

1969年、船乗りを目指して香川県にある国立詫間電波高等学校に入学(目が悪くても通信関係と厨房関係なら船に乗れるので通信関係のこの高校を選択)。その後針路変更し、1979年、工学研究科(芝浦工業大学)修士課程を修了。修士論文のタイトルは「環境放射能汚染の指標としての松葉」

現在、京都大学大学院工学研究科原子核工学専攻に勤務。教務職員。

【畠山 信：NPO 法人「森は海の恋人」 副理事長】

1978年気仙沼市生まれ。地元の高校を卒業後、CW. ニコルが実習長を務める専門学校に入学し、生態学、生物調査法を学ぶ。卒業後、鹿児島県屋久島を中心に環境教育、生物調査に携わる。帰郷し、牡蠣漁師として生活しながら2009年にNPO 法人森は海の恋人を設立。

2011年3月、東日本大震災による大津波で被災。全国各地から訪れるボランティアの受け入れ調整に奔走。唐桑地区を中心に、震災後の自然環境を活かした持続可能な地域づくりを目指す。

【原澤 慶太郎：南相馬市立総合病院 在宅診療部 原澤慶太郎（亀田総合病院 家庭医診療科）】

慶應義塾大学医学部卒、外科専門医、元心臓血管外科医。超高齢化社会の急性期医療に身をおく中で、地域医療が抱える社会的問題への挑戦が、医師にとって最大のフロンティアであると確信、医師7年目に家庭医へ転職。

南相馬市応急仮設住宅での訪問予防接種事業、在宅診療部設立など、南相馬でこれまでに13のヘルスケア関連事業を手掛け、復興庁支援事業に認定される。ICカードによる医療福祉ローカルマイナンバー制度の導入も進めている。原子力災害を受けた南相馬の現場で、この国の新たな医療、ヘルスケアの可能性を模索している。

【西山 祐子：避難者と支援者を結ぶ京都ネットワーク みんなの手代表】

福島県福島市出身。仙台・東京で英語講師、通訳等の仕事に従事。出産を機に福島市に戻り子育て、被災。震災直後に東京へそして2011年6月に京都に3歳の娘と父母と避難する。2011年12月に 県外避難者の支援団体「避難者と支援者を結ぶ京都ネットワーク みんなの手」を発足。避難者への情報発信、ニーズに合わせた支援活動、地域への発信や避難者と地域をつなぐ活動などを行う。被災地である故郷との絆作りも活動のひとつとして行っている。

2012年夏には、京都の支援団体とともに、「こどもたちの夢の夏プロジェクト実行委員会」を結成。京都に避難している子どもたちの友達を福島県から招待する「同級生再会プロジェクト」と、震災後家族と離れて暮らしている避難者家族を京都に招待して思い出作りをしてもらう「家族再会プロジェクト」を行った。年末にも京都福島間のバスを運行し離れて暮らす家族の再会を継続的にサポートしている。

2013年5月には避難者の就労支援も兼ねて避難者と地域を結ぶコミュニティカフェ「みんなのカフェ」をオープン。避難者が中心となりカフェを運営する。避難者が就活するために役立つパソコン教室、ヨガや気功などのリラクゼーションワークショップや育児相談会などを実施。福島はじめ東北の風物詩を紹介し、京都と福島や東北を融合したイベントなども取り組む。避難者の就労支援、自立支援、情報発信、コミュニティ作りの拠点にする。

2013年夏には、同級生再会プロジェクト・家族再会プロジェクトを実施予定。募金活動、Tシャツ販売などの協力ボランティアを募集中！

みんなの手 HP:<http://www.minnanote.com> 、Facebook: <http://www.facebook.com/minnanote>

メール: minnanotekyoto@gmail.com

みんなのカフェの住所とアクセス: 京都市両替町4-319 京阪伏見桃山駅もしくは近鉄桃山御陵前駅徒歩2分 大手筋商店街内、ソフトバンクを左。金森質屋隣。(オフィスは2階です)

【長 峯 純 一：関西学院大学総合部教授・気仙沼市震災復興会議委員】

1958年宮城県気仙沼市出身。慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学。博士（経済学，関西学院大学）。専門は財政学・公共選択論。1986年追手門学院大学経済学部専任講師，1991年同助教授を経て，1995年関西学院大学総合政策学部助教授，1997年同教授。1990年米国メリーランド大学および2006年カナダ・クィーンズ大学客員研究員。

公共財の研究からスタートし，地方分権改革や行政改革や政策評価に関わってきた。近年，森林・河川・都市・港湾をつなぐ政策の必要性を感じ，流域マネジメントや流域ガバナンスの研究にも着手。公共選択学会理事・日本公共政策学会理事等。震災関係では，気仙沼市の震災復興会議委員・震災復興推進フォーラム委員を務め，気仙沼大島を支援する研究者グループ「気仙沼大島みらいチーム」の代表として活動。主な著作に，『公共選択と地方分権』（勁草書房，1998年），『公共投資と道路政策』（共編著，勁草書房，2001年），『選挙の経済学』（監訳，カプラン著，日経BP社，2009年），『比較環境ガバナンス』（編著，ミネルヴァ書房，2011年），「防潮堤の法制度，費用対効果，合意形成を考える」『公共選択』第59号，2013年2月，pp.143-161など。

【メモ】

アンケートのお願い

本日は、2013年公開シンポジウム「東日本大震災後の復興の今を語る」にご参加いただきありがとうございました。

本会におきましては、東日本の真の現状を多くの方々に知っていただくために、本シンポジウムの内容を、本会会誌アカデミアNo.41 2013.8に掲載し、広く配布いたしたいと考えております。

また、本日のシンポジウムに参加された皆様方のご感想、ご意見等も合わせて掲載させていただきたく、つきましては、裏面にご自由にご記入いただければと存じます。

なお、会誌への掲載を望まれない方は、その旨記載願います。

おって、会誌をご希望の方は、お送り先をご記入いただければ、無料にてお送りいたします。

会誌を希望する。

お送り先 住所：〒

宛名：

アンケート

よろしければ、ご記入願います。

性別： 女性 男性

年齢： 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代
70歳以上

ご住所： 京都市府内 近畿圏内（ ） その他（ ）

本シンポジウムの開催を何でお知りになりましたか
チラシ 知人 新聞 HP その他（ ）

○本日のシンポジウムの感想、意見、参加された動機等をご自由にお書き下さい。

（ 感想等の本会会誌への掲載を望まれない方は、内にチェックを入れてください。）

※ご協力ありがとうございました。